

松本 智也 (マツモト トモヤ)

職名	助教
専門分野	日本近世史、日本思想史、日朝関係史
学位	博士（文学）

【主な業績等】

項目	年月	概要等
学術論文等：	2018年1月	対馬藩儒満山雷夏の自他認識——「藩屏」論と「礼」論より（単） ＜立命館文学＞
	2019年11月	18～19세기 對馬 지식인들의 ‘藩屏’론 -역사서 편찬에 보이는 자아인식의 형성-（単）＜韓日關係史研究＞
	2019年10月	近世後期日本知識人の日朝關係認識—文化度通信使との接触を 通じて—（単）＜歴史評論＞
	2022年3月	文化易地聘礼をめぐる徳川幕府の対応——諱・上使称号・衣服に ついての林述齋の発言を手掛かりに（単）＜日本思想史研究会会 報＞
学会発表等：	2015年10月	徳川時代漂流記に見る朝鮮認識＜日本思想史学会大会＞
	2016年12月	近世後期対馬における朝鮮認識—小田幾五郎を中心として—＜ 九州史学会大会＞
	2016年8月	19세기 초 조일상호인식의 한 측면 ——일본 지식인과 1811년 辛未通信使와의 접촉을 소재로 < `트랜스내셔널 역사학` 학문후속세대 학술대회 >
	2017年10月	対馬藩儒満山雷夏(1736～90)の藩屏論と礼制論＜日本思想史学 会大会＞
	2019年5月	對馬 ‘藩屏’론으로 보는 18-19세기 對馬藩의 자아인식 형성< 韓日關係史学会>
	2021年5月	1811年度通信使迎接の儀礼空間構築——徳川幕府の対応を中心 に<東アジア文化交渉学会>
	2023年10月	宝暦度通信使と幕府儒官との交流——朱子学普及の動向を視野 に<広島史学研究会大会>
著書・訳書等：	2016年11月	（論文翻訳）鄭多函「“事大”と“交隣”と“小中華”という枠組みの Transnationalな脈絡」（単）＜東アジアの思想と文化＞
	2019年5月	東アジア 遭遇する知と日本—トランスナショナルな思想史の 試み—（共）桂島宣弘ほか＜文理閣＞
	2021年3月	（論文翻訳）卞恩眞・金貞和「日帝強制占領期、儒教団体機関紙 の現況と性格」（単）＜東アジアの思想と文化＞

項目	年月	概要等
著書・訳書等：	2021年3月	(論文翻訳) 鄭旭宰『『彰明』の構成と性格』(単) <東アジアの思想と文化>
	2023年7月	〈文事〉をめぐる日朝関係史——近世後期の通信使外交と対馬藩(単) <春風社>
所属学会等：	立命館史学会 日本史研究会 朝鮮史研究会 日本思想史学会 歴史科学協議会 日本経済思想史学会	